

田 川 宏, 他著 骨折・脱臼・末梢神経損傷

一般のリハビリテーション施設における理学療法で、整形外科の疾患を扱うことは非常に多い。かえって、そのためにややもすると古い後療法的な概念で治療されてしまうこともある。従来、整形外科の成書でもリハビリテーションの重要性は認めながらも、具体的な症例になると、けっして十分な記載がなされてあったとは、言いにくいように思われる。

「骨折・脱臼・末梢神経損傷」は、もちろん整形外科疾患のすべてにあたるものではないが、この分野での、代表的なケースに関しての最新の考え方及び治療方法が網羅されており、非常に読み易く整理されていることは、日常治療に忙しい我々 PT が、仕事の合間にも手軽に調べることができて便利である。

例えば骨折の成書は多いが、それを通読することは、我々にとって困難なのがいっすらである。この書により今までの知識の整理を

しなおすことができ、その点で恰好の書だと思う。ことに症例を豊富に紹介されていることは親切的な記載である。

内容は、第1章が骨折・脱臼・捻挫の総論的なことが書かれており、その PT に関する治療法まで。第2章は、上肢の骨折・脱臼の各論。第3章は、頭部・頸部外傷の発生機序より、リハビリテーションに到るまで。簡単な検査法を含みその好発部位と後遺症に到るまで症例をあげて書かれている。第4章は、体幹で、まず総論的に脊柱の生理弯曲の発生や、静力学的脊柱支持機構等より始まり、各論及び理学療法、装具まで。第5章では、下肢の骨折・脱臼の各論。第6章では末梢神経損傷で、原因、診断、検査方法及び治療法、合併症等の対策。そして上、下肢の末梢神経損傷の各論に到るまで。

ことに体幹の章は、PT、OT を中心にまとめられ、疾患に応じ、その治療手技に関する機能的な意味づ

けを詳しく展開してあり、腰痛を主訴とする患者の理学療法を多く扱う整形外科分野に働く PT には、役立つことが多い。

本書は非常に簡潔な文章で、わかりやすくまとめてあり、多くの鮮明な図、写真、レントゲン像や、その臨床例までも書かれていて、PT にとってはもちろん他のスタッフにとっても参考になると思う。

又、よりくわしく知りたい人のために、各項目別にたくさんの文献が掲載されているのは、ありがたい。

ただ、気になったことは、各所に「リハビリテーション」という語の使用上の語義の統一が、やや欠けるように思われ、現在、世に氾濫しているリハビリテーションという言葉のあいまいさからみて、誤解されなければと案じられた。(医歯薬出版、A5版、408ページ、3,500円)

(東京医科歯科大学、理学療法士

細田多穂)